

## 平成29年度岡山大学入学式及び大学院入学式式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日ここに、学部学生 2,394 名、大学院学生 1,007 名、総計 3,401 名の新入生、そして 17 カ国から 114 名の留学生が、岡山大学に入学を許可されました。皆さんの長年の努力が実を結び、岡山大学において、人生の新たなページを開かれることは大きな喜びであります。

ご来賓の皆様とともに、岡山大学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げますとともに、ご列席の保護者の皆様にもお慶びを申し上げます。

新入生の皆さんが今日から学ばれる岡山大学は、今から 147 年前の明治 3 年に創設された岡山藩医学館を起源とする岡山医科大学、明治 7 年の温知学校、明治 33 年の旧制第六高等学校、大正 3 年の大原奨農会農業研究所など、岡山の地にあった優れた伝統と実績を誇った高等教育機関を統合して、昭和 24 年、新制国立大学として設立された、輝かしい歴史と伝統のある大学です。

今日岡山大学は、11 学部、7 大学院研究科、3 つの研究所、大学病院、附属学校園を備えた、全国でも屈指の規模をもっています。現在、1 万 3 千人の学部学生と大学院生、留学生 700 人、教職員を加えて 2 万人の人々が、木々の緑に囲まれた美しいキャンパスにおいて、知の創造にとり組み、優れた教育と研究の成果を基に、地域のみならず世界に貢献する総合大学へと発展しております。

これまでの岡山大学の輝かしい歴史と伝統は、皆さんと我々にとって、もちろん大きな誇りではありますが、皆さんを迎えた本日、私はむしろ、皆さんとともに築いていく、これからの岡山大学、岡山大学の未来が、我々に、より大きな誇りをもたらす大学となることを期待しています。

皆さんが社会に出て活躍されるであろう 2030 年ごろには、グローバル化が一層進展し、急激に進む IoT (Internet of Things) や人工知能などをはじめとする技術革新が、産業構造や人類社会に大きな変化をもたらすと言われていています。2013 年にオックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン博士が発表した論文、「THE FUTURE OF EMPLOYMENT」、日本語訳では「雇用の未来」となっていますが、彼

の試算によると、米国において今後 10 から 20 年以内に、労働人口の 47%が機械に代替可能、すなわち取って代わられるであろうと報告しています。予測が追い付かない速度で変わる人類社会の様々な課題を、私たちは人としてどのように解決していけばいいのかが問われています。

人類社会と岡山大学の未来を託す皆さんに、私は、新制岡山大学発足にあたって広大な旧軍用地を津島キャンパス用地として確保してくださった、第六高等学校校長の黒正 巖（コクショウイワオ）先生のお言葉を贈りたいと思います。

黒正校長は第六高等学校に着任されたときに、『高校生の本分は「真理探究、道理徹底」更に「哲学の精神」にある。そして諸君はすべからく refined barbarian(洗練された野蛮人)であれ。それが自らの真理であり、哲学であるならば、他人の目や常識など気にせずに、自分の責任において何でもやってみる「蛮勇の徒」であってほしい。そこに何かが見えて来るかも知れない。今の諸君の年頃では、一つや二つの失敗は、失う物よりも得られる物の方が遙かに大きい』とおっしゃいました。

この黒正先生のお言葉は、知識基盤社会の今日にこそ通用すると私は思います。岡山大学の理念は、“高度な知の創成と的確な知の継承”です。岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的としています。人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。高度な知の創成を生み出すためにも、新入生の皆さんには、黒正先生のお言葉を胸に、これからの大学生活において失敗を恐れずに様々な事にまずチャレンジして頂きたいと思います。

私は丁度皆さんの年頃の頃に、交換留学生として1年間、フィラデルフィアの近くの **Emmaus High School** にホームステイをしたことがあります。少し大げさではありますが、この留学体験で私の人生観は大きく変わりました。どんな辛い事があっても暗くならず **Joke** で笑い飛ばす **Positive Thinking** の大切さや、大人・子供や教師・生徒を分け隔てなく扱う **Fairness** (公平性) の重要性を学びました。またボランティア活動を通して多くの人と交流する中で、日本の文化や歴史の重要性を改めて感じる機会にも恵まれました。正に、黒正先生が私たちに残して

くださった、失敗を恐れずに、一步前に踏み出し体験することこそ若者の特権である、ということは私の実感であります。

岡山大学では、その理念の達成と皆さんの夢の実現に向け、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援（Top Global University Project）」事業や、「研究大学強化促進事業」、並びに日本医療研究開発機構（AMED）の「革新的医療技術創出拠点」への選定等を通じて、本学の特色でもある異分野融合の取り組みなどを推し進めながら、皆さんが自らの足で一步踏み出して、主体的に学修しグローバルに活躍する実践人として、世界へと羽ばたくことができる環境を、今後もしっかりと整備してまいります。

これからの人類社会が直面する多くの課題は、世代、分野、文化、思想、国境など、様々な要素がこれまで以上に複雑に絡み合って形成されたものでしょう。そのような多様な要素がある複雑な課題に取り組む時、私は、同じ目標を目指して力を合わせる、色々な仲間が集まったチームの力を活かすことが大切だと思います。一つのボールを、声を出し息を合わせてゴールを狙う、みんなの力でボールをゴールに入れる、チームの力が個人技を超えること、これも留学した時に楽しんだバスケットボールの経験で私が学んだことです。

今後皆さんが何か困難な課題を抱えたとき、自分だけで解決しようと苦しむのではなく、一步踏み出して学部や学科、学年そして地域、国籍を超えた、多くの仲間たちと繋がるのが解決の道を拓くことになると思います。知恵と力を出し合って解決に向けた取り組みを行うことで、今まで考えたこともなかった視点からのアイデアや、経験したことのないチームの力強さにきっと出会われることと思います。それこそが、多様性を愛する総合大学の強みだと私は思います。グローバルという言葉は、単に英語を聞き・話すことだけを指しているのではなく、あらゆる世界と自分との積極的なコミュニケーションを表す言葉であると私は考えています。

最後に、本日ご臨席くださった保護者の皆様にお礼とお願いを申し上げます。このたびは、皆様のご大切なご家族の進学先として、私たち岡山大学を選んでくださり誠に有難うございました。私たち教職員一同、新入生の皆さんが、高度な知識と高い技術力を習得し、日本だけでなく世界でも活躍できる教養豊かなグローバル実践人として成長

されるように、全力で支援をして参りたいと思います。また保護者の皆様におかれましては、岡山大学が、そのような充実した学びの場となるよう、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、新入生の皆さん、今日から岡山大学の学生として、希望に溢れた新しい一日が始まります。ぜひ失敗を恐れずに、自らの足で一歩前に踏み出して、仲間とともに充実した大学生活を送ってください。

本日は誠におめでとうございました。

平成29年4月2日

国立大学法人岡山大学長  
榎野 博史